

基本目標 7 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす

1 基本目標の 2021 年度の成果評価

(1) 基本目標

① 基本目標のねらいと取り巻く状況の認識は妥当か 未来デザインを上から下へ俯瞰する視点で方向性・妥当性の評価	
木下 徳康	<p>【評価】 医療・介護の重症化予防と必要な方に介護サービスが届くようにという考え方は妥当。</p> <p>【課題】 自分の健康について関心を持つ機会、人を増やすこと。 社会参加、地域活動、人とのつながりコミュニティがフレイル予防にも重要視されているがこれらを取り込む検討が必要。</p>
岡田 倫英	<p>【評価】 概ね妥当。</p> <p>【課題】 後期高齢者の増加とこれに伴う介護需要増加の見通しは記述の通りだが、基本目標のねらいである「重症化予防」とは視点が異なる（高齢化によってただちに重症化するとは限らない）。取り巻く状況の中では、「通いの場」利用者の増減など市民の健康づくりを認識に入れていく必要がある。</p>
関島 百合	<p>【評価】 おおむね妥当。</p> <p>【課題】 取り巻く状況が深刻で、職員への負担増が気になる。コロナ対応も続くため、適正な人員配置や業務委託などに取り組みながら、市民益を念頭に取り組んでいただきたい。</p>
福澤 克憲	<p>【評価】 ねらいと取り巻く状況の認識はおおむね妥当。</p> <p>【課題】</p>
小林 真一	<p>【評価】 概ね妥当</p> <p>【課題】 コロナ禍の状況と直結する部分であり、状況に合わせた対応が望まれる</p>
佐々木 博子	<p>【評価】 概ね妥当である。</p> <p>【課題】</p>
山崎 昌伸	<p>【評価】 ねらいと取り巻く状況の認識は概ね妥当と思われる。高齢化率が全国平均より高い当市にあっては、この基本目標への取組は待ったなし。</p> <p>【課題】 コロナ対応に人手や資源を割かなければならず、スピード感をもって取り組めていないのではないかと。</p>

② 取り組みの内容をどう評価するか 戦略計画との関係性、目標達成への貢献度・成果の評価	
木下 徳康	<p>【評価】 妥当。</p> <p>【課題】 予防に関してその効果の指標基準は課題。</p>
岡田 倫英	<p>【評価】 戦略計画との関係性は適当で、前年度からの充実が図られていて概ね評価できる。</p> <p>【課題】 後期高齢者の健康づくりにおける「高血圧」と、働き盛り世代からの生活習慣病予防における「体重増加」は関係性が高いとされる。世代別の取り組みは勿論、縦串を通す認識が必要ではないか。</p>
関島 百合	<p>【評価】 ・新たな業務となった、コロナウイルス感染症対策がしっかりできている。 ・ポイント制度への具体的な動きがある。</p> <p>【課題】 ・口腔衛生に関しては、力を入れる世代にかたよりのある。医療費削減、健康寿命につながる口腔衛生の大切さを、若年層も含め全世代に伝え、口腔体操やケアを実践してもらえる取り組みを考えていただきたい。</p>
福澤 克憲	<p>【評価】 第8期介護保険事業計画の要介護認定者数等の推計（令和3年度以降は厚生労働省推計値）と現時点の実数を比較すると、令和3年度・令和4年度の出現率が推計よりも減少している。このことから令和3年度の戦略計画の効果が表れていると評価できる。</p> <p>【課題】 ポイント制度、フレイル予防などの今後の方向性を考えた場合、7-②、7-③、7-④は関連している事業と感じる。どのように連携し取り組んでいくかが課題。令和2年度の年度戦略となっていた「介護人材の確保」は、分野別計画の中で取り組んでいくとの説明であったが、新たな事業展開、実績が読み取れない。喫緊の課題としてどのように取り組んでいくかが課題。</p>
小林 真一	<p>【評価】 概ね評価する</p> <p>【課題】 概ね評価する</p>
佐々木 博子	<p>【評価】 一定の評価ができる。</p> <p>【課題】</p>
山崎 昌伸	<p>【評価】 コロナ禍で下がった国保の特定健診受診率の回復、飯田市の健康課題として「高血圧」を把握するなど、一定の評価ができる。</p> <p>【課題】 国保の特定健診受診率は把握されているが、現役世代の多くはこれに含まれない。この目標達成には、全体としての健康診断の受診率の把握が必要ではないか。これも含めて、企業との連携が欠かせない。</p>

(2) 戦略計画

年度戦略 (小戦略)	7-①	新型コロナウイルス感染症対策の推進
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか 基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等		
木下 徳康		<p>【成果】 ワクチンの集団接種の他、医療機関の協力による個別接種の充実は良かった。検査に関して市立病院との連携し、地域外来・検査センターを早期に立ち上げ運営したこと、自費抗原検査の補助、検査キットの活用など評価できる。</p> <p>【課題・方向性等】 コロナの感染状況により検査キットの活用方法の検討。</p>
岡田 倫英		<p>【成果】 感染拡大期が相次ぐ困難な状況下、役割を果たしたと言える。保健所、医療機関との連携により迅速に検査を実施できる体制を整え、ワクチン接種も2回目まで8万人余に対して実施した。</p> <p>【課題・方向性等】 ワクチン接種の希望者数は全国的な世論に影響される向きが強いが、希望者が速やかに接種できる体制を整えることが必要。抗原定量検査も希望者が受けやすい環境の継続がまだまだ必要。</p>
関島 百合		<p>【成果】 国の施策に従い、県や医師会などとも連携して推進できた。</p> <p>【課題・方向性等】 コロナ対応に追われて他の業務が手薄にならないよう、また、一部の職員に負担がかたよらないよう、増員など、見直すべき課題の検討が必要。</p>
福澤 克憲		<p>【成果】 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種については、さまざまな状況の変化に的確に対応し、取り組まれていることは評価できる。</p> <p>【課題・方向性等】 引き続き、国の制度改正等を踏まえ、医師会や南信州広域連合との連携を図りながら、当地域の感染拡大防止、重症化予防に努められたい。</p>
小林 真一		<p>【成果】 概ね果たした</p> <p>【課題・方向性等】 今後は3回目、4回目のワクチン接種の促進が必要</p>
佐々木 博子		<p>【成果】 概ねその役割を果たしたと評価する。</p> <p>【課題・方向性等】 概ね妥当である。</p>
山崎 昌伸		<p>【成果】 ワクチン接種、検査体制や制度の充実など、他の自治体に先駆けて取り組み、評価できる。</p> <p>【課題・方向性等】 コロナ罹患後の後遺症について、情報提供が必要。</p>

年度戦略 (小戦略)	7-②	市民、地域とともに進める健康づくり（働き盛り世代からの生活習慣病予防）
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか 基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等		
木下 徳康	<p>【成果】 特定健診受診、またその結果から生活習慣病重症化予防対象者に受診を促す、消防団健診(教室)の事業は良い。</p> <p>【課題・方向性等】 インセンティブ付与の検討は良い試み。しかし導入に関してはアプリ活用など慎重な検討が必要。</p>	
岡田 倫英	<p>【成果】 概ね役割を果たした。特定健診受診率は令和2年度の低数値が特殊要因だったと言え、平成29年度～30年度水準まで回復した。働き盛り世代の生活習慣病予防は、消防団を通じた健康教室の反響が大きかった。</p> <p>【課題・方向性等】 特定健診受診率は県平均より低く、実施効果が高い集団検診を通じた勧奨が引き続き必要。消防団健診はデータ収集の最終年度であり、分析・活用につながるよう引き続き多数の参加が求められる。</p>	
関島 百合	<p>【成果】 消防団健康教室を通して、体重が増加する働き盛りの世代の特徴がつかめた。</p> <p>【課題・方向性等】 働き盛りの世代で体重が増加する要因などを分析し、今後に生かす取り組みと、それらを踏まえた上での働き盛り世代への啓発。</p>	
福澤 克憲	<p>【成果】 特定健診について、各地区保健師や地域の健康福祉委員の取り組みにより、コロナ禍において受診率を回復させたこと、企業健康講座ではオンラインも活用し、新たな5企業での取り組みを行ったことは評価できる。</p> <p>【課題・方向性等】 ポイント制度のあり方については、若い世代、高齢世代など、全世代をターゲットとした組み立て（手法）の検討が必要。</p>	
小林 真一	<p>【成果】 概ね果たした</p> <p>【課題・方向性等】 ・企業出前健康講座について今後のアプローチの仕方について具体的な方策の検討が必要 ・消防団検診の結果に基づいた若年世代、働き世代など市民全体へのアプローチが必要</p>	
佐々木 博子	<p>【成果】 役割を果たしたと評価する。国保の特定健診受診率の回復と企業健康講座の新たな展開など。</p> <p>【課題・方向性等】 働き盛り世代は忙しい。仕事と家庭の両立を目指し自身の心身の健康は後回しにせざるを得ない状況の中、いかに習慣づけていくか。口臭は口腔衛生と関係していることから「お口の臭い」という働き盛り世代にも関心の高そうな点から健康づくりの習慣化を意識づけできないかと思う。</p>	

山崎 昌伸	<p>【成果】 消防団健診を実施した事は評価出来る。対象を全分団に広げ、受診率が上がるよう取り組まれない。</p> <p>【課題・方向性等】 特定健診の受診率が県平均よりも低い状況下で、40歳での定期健診の制度について、これまで国の補助制度を生かしてきれていなかった点については反省が求められる。</p>
-------	--

年度戦略 (小戦略)	7-③	後期高齢者を対象とした保健指導（健康づくり）
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか 基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等		
木下 徳康		<p>【成果】 KDB システムの解析により、飯田市において高額医療になる基礎疾患として高血圧症の実態を明らかにし、その予防に取り組んだことは評価できる。</p> <p>【課題・方向性等】 自分の健康について意識する機会を増やすこと。</p>
岡田 倫英		<p>【成果】 概ね役割を果たした。KDBシステムの活用によって高血圧に焦点を絞った取り組みが進められ、教室の開催に至った。歯科衛生士による口腔指導を機に、問題がある人の3割に機能改善が見られた。</p> <p>【課題・方向性等】 フレイル予防は運動・栄養・口腔等の相談・指導からなる総合的な取り組みだが、これらを総括した評価数値が示されると良い。</p>
関島 百合		<p>【成果】 高血圧の実態を飯田市の健康問題として把握できた。</p> <p>【課題・方向性等】 飯田市では高血圧症が多い現状を市民に周知し、重症化予防の前段として、日頃の予防を呼びかける取り組みも必要。</p>
福澤 克憲		<p>【成果】 国保データベースシステムを活用し、レセプトデータ等の分析に基づき、課題を抽出していることは評価できる。</p> <p>【課題・方向性等】 データ分析等の結果を広く周知し、重要性を認識してもらえ、重症化予防につながるような事業展開が大切。フレイル予防の具体的な事業展開が必要。</p>
小林 真一		<p>【成果】 高血圧予防へのアプローチができ、重症化予防につながった</p> <p>【課題・方向性等】 フレイルの周知について、まだまだ出来ていない印象、更なる周知が必要</p>
佐々木 博子		<p>【成果】 役割を果たしたと評価する。飯田市の健康課題を「高血圧」と把握したこと。</p> <p>【課題・方向性等】 「透析治療は金のなる木」と病院側が透析患者を増やそうとするという話をきいたことがある。病院の言いなりになって透析患者にされないような意識づくりという意味でも必要。「わかっているけどなかなかできない」という人が大多数な現実の中、浅くてもいいので広くポピュレーションアプローチをかけていくことが大切になっていくと思う。</p>

山崎 昌伸	<p>【成果】 医療費の多くを占める生活習慣病の実態と、高額医療になる疾患の基礎疾患としての「高血圧」の実態を市の健康問題として把握できた点は評価できる。</p> <p>【課題・方向性等】 フレイルという概念が市民にどこまで浸透しているか、対象となる高齢者に横文字で意味が伝わるのかも含めて、どう理解を広げるかの更なる検討が急がれる。また、地域による特性も考慮した対策の検討を進められたい。口腔ケアについて、健康との関係性を理解してもらい取り組みも求められる。</p>
-------	--

年度戦略 (小戦略)	7-④	介護予防（重度化防止）の推進
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか 基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等		
木下 徳康		<p>【成果】 軽症者に対する支援としては価値のある取り組みである。</p> <p>【課題・方向性等】 この取り組みによりどのくらい軽症者の自立、以前の生活に戻ったかのデータはない。 介護予防の観点からは軽症者以前の可逆的であるフレイル状態での取り組みが必要。</p>
岡田 倫英		<p>【成果】 要支援・要介護認定者の出現率は令和1年10月から減少傾向を続け、同行訪問者の70%以上に自立した生活が確認できていることから、役割を果たしていると言える。</p> <p>【課題・方向性等】 「通いの場」の再構築と活性化のための必要性が地区住民と確認できており、具体的な推進が求められる。</p>
関島 百合		<p>【成果】 下久堅をモデル地区に、引き続き実施できた。</p> <p>【課題・方向性等】 ・「通いの場」に取り組む住民がいなければ成り立たない事業のため、「通いの場」の必要性を理解できる住民を増やす取り組みも必要。 ・「通いの場」は、地域コミュニティの構築にも貢献するため、世代交代しても継続される取り組みも必要。</p>
福澤 克憲		<p>【成果】 基幹包括支援センターリハビリ専門職と地域包括支援センター職員による同行訪問は、介護予防につながる事業として評価できる。</p> <p>【課題・方向性等】 要介護認定者数・出現率を抑えるためには、軽度者（要支援者・総合事業対象者）に対する介護予防は大変重要。継続した取り組みをお願いしたい。</p>
小林 真一		<p>【成果】 概ね果たした</p> <p>【課題・方向性等】 モデル地区での取り組みがコロナ禍もあり見えない部分がある、まとめについても展開いただき、継続性を持って取り組む必要がある</p>

佐々木 博子	<p>【成果】 役割を果たしたと評価する。初期段階での充実した相談対応や軽度者への専門職による事業実施。</p> <p>【課題・方向性等】 介護予防に重要な役割を担う「通いの場」の再構築と活性化に今後も期待したい。</p>
山崎 昌伸	<p>【成果】 要支援・要介護認定者数と出現率の推移をみれば、それなりの成果が上がっていると思われる。</p> <p>【課題・方向性等】 最大の課題は、介護人材の確保と考えるが、昨年の年度戦略から変わっており、この点についての記述が皆無だがどう取り組むのか。</p>

(3) 実績を踏まえた事業確認

2022 年度戦略の方向性・妥当性、社会的環境変化への適応状況等を反映しているか 現状確認と今後に向けた課題・方向性等	
木下 徳康	フレイル予防には活動量を増やす、コミュニティを密にするなどが、効果があることが明らかになってきているがこれらを事業に組み込むかどうかの検討が必要。
岡田 倫英	妥当と言える。健康づくりの取り組みはいかに長く継続できるかが重要であり、「楽しみながら健康を自己管理できる仕組みの研究」は大事になる。
関島 百合	おおむね妥当。反映している。
福澤 克憲	おおむね反映している。
小林 真一	フレイル予防について更に周知と推進をする必要がある
佐々木 博子	反映している。
山崎 昌伸	健康づくりの推進に、アプリなどを使った健康ポイント制度導入の検討を進めるとのことだが、導入にあたっては単に制度を入れるだけでなく、成果の検証をどのようにして行うかもしっかりと構築した上で導入されたい。

(4) 進捗状況確認指標

進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）、参考資料等は、戦略の達成度、進捗状況を測る指標として妥当か 達成度を成果指標等により 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
木下 徳康	現時点の3つの指標は妥当と思う。しかし、要介護認定者・出現率にあわせ、最初に要介護認定あるいは要支援をした平均年齢を加えるべき。
岡田 倫英	①前年度にあった「フレイルに陥っている高齢者の割合」は表記が見当たらないが、どうなったのか。 ②体重管理、血圧管理の課題認識に立つと、食事バランスの傾向も把握できると尚良い（高山部長が『焼き肉日本一』と合わせて『野菜の消費も日本一に』と言及していたのを受けて）。
関島 百合	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔衛生に関する、これまでの取組が見えない。 ・「通いの場」といった、地道な取り組みの実態が見えない。
福澤 克憲	おおむね妥当。

小林 真一	概ね評価し、指標としても妥当と考える
佐々木 博子	妥当である。
山崎 昌伸	「介護人材の確保」について、状況が把握できるデータが必要。介護職員の必要数の目標値と現状をK P Iに加えるべき。(昨年も同様の指摘)